

論文審査の結果の要旨

氏名：星 健 一

博士の専攻分野の名称：博士（文学）

論文題名：現代中国語略語研究

—構成過程上の制約と数詞の位置決定規則—

審査委員：（主査） 教授 平 井 和 之

（副査） 教授 張 麗 群

東京外国語大学大学院教授 加 藤 晴 子

本論文は現代中国語における略語の構成に関する制約、及び序数を含む略語で数詞が移動する場合の規則について論じたものである。

星氏は、略語とはある原形から何らかの字が残留する或いは消去されるという過程を経て構成されたものであるという前提に立ち、字の残留と消去は恣意的に起こるのではなく、一定の制約を受けるとし、その制約を規則として明示することを目指した。原形を一定の手順に従って幾つかの部分に分割した上で、分割された各部分における字の残留と消去の起こり方に注目するという方法を採用している。具体的には、「段」と称する部分に関して、姉妹関係にある段は同一階層にあつては一对しか存在し得ないという制約（＝姉妹一对の規則）を呈示し、また「片」と称する部分に関して、一字消去される片の間に全ての字が残留する片は存在し得ないという制約（＝ara 禁止の規則）を呈示した。また、等位各項から同じ字数が残留し、更に等位各項に共通の字が残留するという形式の略語に関し、従来単に「共通の字」としてのみ言及されてきたものは、実は原形の等位各項と略語において階層構造を同じくしなければならないことを明らかにした。

数詞の移動に関しては、まず移動が起こらなかったと仮定した場合の形式（＝仮定形式）、及び実際に構成される略語を、一定の手順の下で形式面からタイプ分けした上で、どのタイプの仮定形式がどのタイプの略語になるか、即ち仮定形式と略語の間に如何なる数詞移動が起こるか（または起こらないか）を観察した。次に、このようなタイプの変化を説明する規則を考察し、その規則が仮定形式から直接略語を構成するものではなく、仮定形式から略語に至る中間の形式（＝過渡的形式）を生成する規則と、過渡的形式から略語を生成する規則の二段階からなると考えることにより、数詞移動のあり方をより一般化して説明することに成功した。

本論文で考察の対象とした原形と略語の対を、星氏は主に現行の種々の略語辞典から 8300 余例採っており、インターネット等からの例は、広く通用しているを見なせるものを除き、積極的に採っていない。これは自分の仮説に有利な例を恣意的に採ることを戒めるため、慎重且つフェアな研究態度と言える。その代わり、8300 余例については呈示した規則に違反していないことを逐一確認している（姉妹一对の規則に反するものが一例ある。その他数詞移動に関する例外もあるが、例外の生ずる条件を明示している）。

従来の略語研究は、その多くが形式上からの分類を試みたものであり、本論文のように構成過程を明らかにせんとした研究は那須雅之氏の業績を除きほとんど見られない。この点において、本論文は略語研究の分野における画期的な業績であると言える。ただ、本論文で呈示された規則は「この原形からはどのような略語が構成され得ないか」という、いわば消極的規則である。「この原形からはどのような略語が構成されるべきか」という積極的規則を明らかにすることが、略語構成過程に関する研究の究極的な目標であろう。那須雅之氏の業績はそのような積極的規則の解明を目指したものと見えようが、その規則は幾つかの個々の例に適用されるものであった。その点、本論文で呈示された規則は一般的に適用可能な規則であり、これらを前提として更に個々の例に関する積極的規則を解明していくことにより、究極的目標に到達し得るという今後の研究方向を示したものとしても高く評価することができる。

よって本論文は、博士（文学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

平成 26 年 1 月 23 日